

【問 1】 下記の論文群（別冊：A～K）から1つを選び、看護学、理学療法学、作業療法学、放射線技術科学のいずれかの専門領域における実践の観点にたち、選択した論文の論旨について各自の考え（研究方法、データ分析法、結果の解釈、考察、専門分野との関連性、等）を述べよ。文字数は1000字以内とする。

【問 2】 問1の解答を基に、研究方法や結果の解釈に対する各自の新しい提案を述べよ。文字数は500字以内とする。

-論文群-

看護学領域

- A：山本弘江、池田真理. EPDS-P 日本語版を用いたパートナーによる産後うつモニタリングの可能性. 日本看護科学会誌 2021 ; 41 : 106-113
- B：今井多樹子、高瀬美由紀、他. 看護実践の質向上に資する効果的な職場環境デザインの検証. 本職業・災害医学会会誌 2017 ; 65 : 47-51
- C：杉山由香里、比嘉勇人. 看護師の基礎的コミュニケーションスキルと援助的コミュニケーションスキルの関連性. 日本精神保健看護学会誌 2019 ; 28(1) : 12-20

理学療法学・作業療法学領域

- D：和中秀行、岩田晃、他. 人工膝関節全置換術患者の両下肢間協調性について. 理学療法学 2020 ; 47(5) : 402-410
- E：林翔太、五十嵐達也、他. 随意運動介助型電気刺激を用いた筋力トレーニングと歩行練習が軽症急性期脳卒中患者の運動麻痺や歩行機能に及ぼす影響：準ランダム化比較試験での検討. 理学療法科学 2020 ; 35(6) : 885-891
- F：中村雅俊、池添冬芽、他. スタティックストレッチングが腓腹筋筋腱複合体の筋力及びスティフネスに及ぼす影響の検討：異なるストレッチング時間と反復回数を用いた検討. 体力科学 2017 ; 66(2) : 163-168
- G：福本悠樹、鈴木俊明、他. 運動イメージの実施は脊髄前角細胞の興奮性を増加させるが呼吸の各相はその程度に影響しない可能性がある. 理学療法科学 2019 ; 34(2) : 239-244
- H：原田佳典、野藤弘幸. AYA(Adolescent and Young Adult)期の脳腫瘍クライアントに対して人間作業モデルに基づく作業療法が Quality of life の向上をもたらした事例. 作業行動研究 2020 ; 24(1) : 29-36
- I：黒川真希子、間川博之、他. 脊髄障害自立度評価法(SCIM)の信頼性と妥当性に関する検討. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 2007 ; 44(4) : 230-236
- J：中越雄也、藤原賢次郎、他. 脳卒中患者へのクライアント中心の作業療法の効果－回復期リハビリテーション病棟における予備的研究－. 作業療法 2016 ; 35(3) : 311-318

放射線技術科学領域

- K：川嶋広貴、市川勝弘、他. デジタル胸部 X線撮影における線質と画質の関係 人体軟部組織等価ファントムによる検証. 日本放射線技術学会雑誌 2021 ; 77(3) : 255-262